



四日市

『できること・得意なこと・これはできる』の
多様性を十分に発揮してもらいたい

もも四日市では、利用者様一人ひとりに違いがあり、多様性があると考えて支援をしています。その違いは、好みであり、時間の使い方、運動能力（得意分野）等々で、一人として同じ人はありません。利用者様のその違いのひとつひとつを大切に、気持ちよく過ごしていただけるように心がけています。

皆さん、広告で折ったゴミ箱を見かけたことがありますか？ 私たちも、広告や新聞を使ってゴミ箱作りをしています。簡単に見えるゴミ箱作りですが、いくつかの工程からなっています。

例えば認知機能の低下により、2つ以上の工程を続けて折るのが難しい方には、一つの工程だけをまとめて折っていただいて、確実に完成してもらうようにしています。その他にも、四つ折りだけなら出来る方、職員と一緒に折れる方、おひとりで全部折れる方と様々です。利用者様それぞれに、『できること・得意なこと・これはできる』を確認し、それぞれのやれることに注目して個々人の能力を十分に発揮してもらえるように工夫しています。利用者様ごとに、得意な運動や動作能力の違いがあることから、指先の運動強化に洗濯バサミや豆つかみをしたり、体のバランスや筋力回復に平行棒での歩行訓練を行うなど、利用者様ができることを維持し、身体機能の回復に繋がっています。

皆様はいつも「それやるよ」と意欲を持ってやってくださいます。そのお気持ちを大切に、レクリエーションや物作りなど様々な場面で一人ひとりに合ったやり方を見出していけたらと思います。そして、皆様の多様な生き様で“得意”を生かし、今年も何か大きな作品を作り上げたいと思っています。

文責：木戸・津田・山下



お知らせ

四日市の new face、紹介します！！

もも四日市に新しいメンバーが加わりました！

ケアマネジャーの廣田 亮子さんです。

◆お仕事をする際に一番大切に心がけていることは？

⇒ 自分一人で判断せず、多くの方の意見を参考にしながら支援を検討するように心がけています。他事業所の方との連携も大切にしていきたいと思っています。

◆ 今までのお仕事の中で、印象に残った出来事がありますか？

⇒ 大雪の日に湯の山の山頂に住む対象者のお宅まで、徒歩で食料や水を届けたことです。

◆ 皆さんへ一言、お願いします。

⇒ 勤務時間が短く、ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますがよろしくお願いいたします。





★職員募集中★
私たちと一緒に働きませんか？
詳細はホームページをご覧ください

ナースィングホームもも

検索

<https://www.momo3.net>



【本社】 〒511-0241 員弁郡 東員町鳥取917-2 TEL 0594-75-0302	【鳥取】 〒511-0241 員弁郡 東員町鳥取917-2 TEL 0594-86-1110 TEL 0594-86-1113	【いなべ】 〒511-0428 いなべ市 北勢町阿下喜3514 TEL 0594-72-3530	【四日市】 〒512-8054 四日市市 朝明町441-1 TEL 059-336-3330	【桑名】 〒511-0901 桑名市 筒尾1-13-1 TEL 0594-33-0302
--	---	--	--	--

ナースィングホームもも
令和 7年 6月 発行



第24号 もも便り

今、世界中からたくさんの方が集まり、『2025大阪・関西万博』が開催されています。一人ひとりがお互いの多様性を認め、“いのち輝く未来社会のデザイン”を実現するための8つのテーマ事業が設けられています。開幕から1ヵ月で来場者数約260万人という盛り上がりを見せ、海外からの来場者は全体の13%だそうです。余談ですが、人気のお土産は“ミャクミャクのカプセルフィギュア”だそうです。今回は万博にちなんで、テーマは「多様性」。

ナースィングホームももにおける“多様性”について、それぞれの視点から振り返ってみました。

言葉の壁、心のバリアフリー
多様な仲間と創る介護の未来

鳥取



多様性とは、さまざまな性質や種類を持つものが共存している状態を指します。多様性は、社会、文化、生物、意見など、さまざまな分野で重要な概念として用いられます。

多様性のある介護施設は、利用者様一人ひとりのニーズに合わせた、より質の高いケアを提供するために不可欠です。年齢、性別、国籍、障がいの有無、宗教など、さまざまな背景を持つ人々が共に生活し、働く場である介護施設において、多様性を尊重し、それを活かすことは、より豊かな人間関係や包括的なサービスの提供につながります。

現在、ももの各事業所では複数の外国人実習生が活躍しており、もも鳥取で働いている実習生たちも介護現場にとってかけがえのない存在となりつつあります。

ネパール出身の実習生に話を聞くと、ネパールには、穏やかで親切、おもてなしの心を持っている人が多く、日本でもおなじみの「お客様は神様です」という言葉がネパールにもあり、訪問者を大切にする文化があるそうです。その他にも、入浴はシャワーのみが一般的だったり、食事の種類によっては手つかみで食べたり、穏やかな国民性からなのか、日本人が時間に対して正確であることにとても驚いたようです。

仕事で何が一番大変かを尋ねると、日本語を覚えて理解することが大変で、レクリエーションをするのが難しいとのことでした。しかし、我が子のように優しくしてくれる利用者様やスタッフに教えてもらいながら、楽しく取り組んでいます。

彼女たちは、言葉・文化・習慣の様々な違いを乗り越えて、日々現場で頑張っています。利用者様一人ひとりに丁寧に向き合っており、彼女たちの真摯に介護業務に取り組む真面目さや優しさ、そして高い学習意欲は、利用者様への質の高いケアの提供に大きく貢献しています。

外国人にとっては当たり前の文化や習慣が、日本人にとっては新鮮で良い影響を与えることも少なくありません。スタッフや利用者様が多様な価値観や文化に触れることで、施設をより良く変えていく可能性が見つかり、施設の多様性が向上していく未来は明るいのではないのでしょうか。

文責：刀根(慎)



桑 名

小児在宅支援の進歩 ～子供の多様性を信じて～

『この子は長く生きるのは難しいかもしれません』— そう医師から伝えられた時、ご家族の心には計り知れない不安があったことと思います。

Aくんは18トリソミー(遺伝子18番目染色体異常)と診断され、心臓疾患もありましたので、ご家族はAくんの命としっかり向き合いました。

退院前にはご自宅を訪問し、医師・看護師・ご家族で今後の暮らしについて様々な話し合いを行いました。



退院してから、祖母・両親・母の姉と、家族全員で協力されています。訪問看護では、お鼻のチューブの交換や、交換方法の指導・練習、そして生活上の細やかな相談、緊急時の対応を行っていました。

お母さんは毎日毎日、少しの変化にもドキドキし、心配になり、時には表情が暗い時もありました。そんな時はゆっくりお話を聞き、病状に関しては説明し、一緒に考えました。Aくんご家族は楽しいことが大好きです。来年も、再来年も、毎年出来るようにという気持ちを持ちながら、節分や子どもの日など、季節の行事をみんなで楽しみました。

1歳のお誕生日を迎えた時には、盛大なパーティーが開かれました。「ここまで来られた」というご家族の喜びと感謝が、部屋いっぱいに広がっていました。昨年の4歳のお誕生日も、本当に楽しくにぎやかな1日となり、A君の可愛い笑顔がみんなの心を癒しました。

通うのが難しいだろうと思っていた通所支援サービスにも、最近通えるようになりました。ご家族より「帰ってきた時にとてもニコニコしている、本当に楽しそうに過ごしている。」と聞き、訪問看護や支援者の全員が嬉しく思っています。

医療的なサポートが必要な中でも、ご家族の思いや努力、支援チームの連携によって、子どもたちが「その子らしく生きる」道は確かに広がっています。

「多様性」は、特別な言葉ではありません。一人ひとりに違いがあることを認め、支え合いながら共に生きていくことこそが、多様性のある社会だと思います。どんな状況にあっても、その子の命と暮らしを大切にし、ご家族とともに歩いていける在宅支援を、これからも続けていきます。子ども達は色々な多様性、可能性を持っています。私たち支援者が、いかに多様な部分を見つけられるか、広げていけるかが支援の鍵だと思っています。



文責：吉岡



みんな違って当たり前

いなべ



認知症により、自宅での生活が難しくなりつつある利用者Aさん家族から、ある日こんなことを聞かれました。「デイ利用の他の方々はこんな時、どのようにしたら言うことを聞いてくれるんですか?」と。

私は少し考えてから、「認知症は一人として全く同じ症状の人はいませんので、これが正解というケアはありません。それでもAさんが安心するケアができるように、色々と情報を教えてください」とお答えしました。

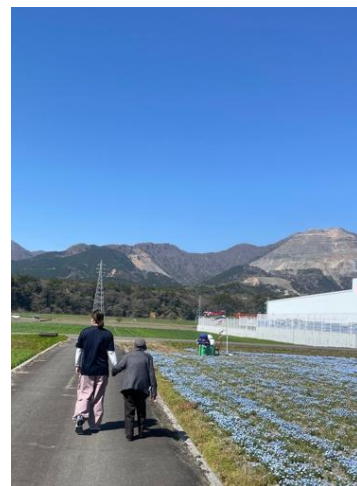
もみなべでは認知症の方の自宅での振る舞いや、過去の仕事や趣味などの多種多様な情報から、様々なケアを試みて、安心していただけるようなケアを見つけようとしています。しかし、その時のケアが正解でも、次の瞬間には不正解になってしまうことが多々あります。

ある日、Aさんが持参した、以前お勤めされていた会社の本を見ながら、昔の思い出をスタッフに色々と話して下さり、話が盛り上がりました。表情も笑顔で穏やかです。

ところが午後になると、本を見ても興味を示さず、スタッフが午前中に聞いた昔の話をして、「そんなこと分かりません、勘弁してください!」と、立ち上がって少し興奮されるほどでした。私たちケアする側も戸惑いますが、その感情は利用者様にも伝わって

しまうため、場合によっては、対応スタッフを変えたり、適度な距離感を取って、感情が落ち着くのを待ちます。

その後、先程の変化はどのような感情なのだろう、何か気分が変わるきっかけはあったらどうかと観察・考察します。この日の原因は、午前中一緒に居たスタッフが、昼休憩のため居なくなったことでした。このきっかけも毎回変わります。このように刻々と変化する感情や細かな情報をスタッフ間で共有し、その日、その時、利用者様一人ひとりにとっての最善策のケアを心がけています。



家庭料理のキッチンもも 思い切ってフランス料理を出してみた!

某テレビ番組で見た美味しそうな料理を家で試作・アレンジして、キッチンももで提供してみたところ、デイの利用者様やお客様に大変好評でした。その料理とは、「鶏肉のお酢煮、プーレオヴィネーグル」です。フランス語で「プーレ」は鶏肉、「ヴィネーグル」はお酢を意味する、フランス リヨン地方の料理です。酸味の中にコクのある味わいです。

レシピとポイントをご紹介します。ご興味のある方は是非ご家庭で作ってみてください。

1. 一口大に切った鶏もも肉に塩コショウし、小麦粉をまぶして焼く。
 2. 玉ねぎみじん切り、トマトピューレ、白ワイン、お酢を入れる。
 3. 具がひたひたになるまで水を入れてからコンソメを入れる。
 4. 蓋をして煮詰める(ローリエを入れるとより本格的です)。
 5. ある程度煮詰まったら、生クリームを加え、サッと煮てとろみをつける。
- 鶏を焼いて出た油は一旦キッチンペーパーで拭き取ります。
 - お酢が苦手な方は、「やさしいお酢」等を使いましょう。
 - 鶏ガラスープの素も入れると、味が複雑になり旨味が増します。
 - お高いですが純生クリーム使うとコクが出ます。

簡単な工程で、気軽にフランス料理が楽しめます。まさか利用者様も、デイサービスのランチで何気なくフランス料理を食べているとは思ってもいないことでしょう。

キッチンももは、これからも、毎日食べても飽きない、ホッとする家庭料理を提供しながらも、時には多国籍な料理で利用者様やお客様に楽しんでもらいたいと思っています。

文責：福本(良)

